

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第160号（4. 10. 11） 多様な性への理解を深めるために必要な施策を求める陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<p>1. 神戸市が官民連携し、より幅広い年齢層において性の多様性を知り理解するため、具体的な機会をつくること。 2. 性的指向や性自認によって、例えば市営住宅の入居や市民病院でのパートナーへの同伴の可否など、社会で困っていることや不便なことは何か、広くニーズ調査し解決に向けて努めること。</p>
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市東灘区 竹 内 加 奈 子</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>福祉環境委員会</p>

令和4年10月11日

神戸市会議長 安井俊彦 殿

陳情者

住所 神戸市東灘区

氏名 竹内加奈子

(電話番号



多様な性への理解を深める為に必要な施策を求めることに関する陳情

陳情の趣旨

神戸市では多様な性への理解を深める為、「LGBTQ 電話相談窓口」の開設、市民向けの映画会や講演会、中学生を対象とするパンフレットの作成と様々な取り組み、神戸市会でも性の多様性の理解を進める為、「性的マイノリティの人権課題と最近の動向」について議員研修会を実施するなど、その取り組みには一定の評価をいたします。

しかしながら、まだまだ社会的にはLGBTやLGBTQという言葉に聞きおぼえがあったとしても、性的指向と性自認の違いさえも知らない方々もいて、知らないことや無理解を端緒とする発言によって、傷ついている人々もいます。また、本人の了解を得ずに他の人に対して公にはしていない性的指向や性自認について暴露するアウティングも深刻な問題です。

日本社会においてはかつてはタブー視され話すことさえも憚られたり、性的指向や性自認についてもテレビで嘲笑の対象としたり、病気といった誤った情報も流れていましたが、社会は目まぐるしく変わり、理解はかつてより進んできたことも確かです。

現在は教育の機会や情報の発達によって幼いころからインターネットに触れる子供達や20代30代の若者は、自然と多様な性についても知り理解する機会もあると感じますが、性に関する理解についてはより多くの人々に知り理解する機会が必要であると感じます。

よって、次の通り、陳情いたします。

陳情事項

- 1、神戸市が官民連携し、より幅広い年齢層において性の多様性を知り理解する為、具体的な機会をつくること。
- 2、性的指向や性自認によって、例えば市営住宅の入居や市民病院でのパートナーへの同伴の可否など社会で困っていることや不便なことは何か、広くニーズ調査し解決に向けて努めること。